

美崎会グループのご紹介



国分中央病院

〒899-4332 鹿児島県霧島市
国分中央1丁目25番70号

TEL.0995-45-3085



サービス付き高齢者向け住宅 メディカーサ国分中央

〒899-4332 鹿児島県霧島市
国分中央1丁目25番51号

TEL.0995-73-7111



地域密着型特別養護老人ホーム ソ・ウェルこくぶちゅうおう

〒899-4332 鹿児島県霧島市
国分中央3丁目12番29号

TEL.0995-73-8300

美崎会グループのWebサイトは下記よりご覧ください

<http://www.misakikai.or.jp/> 美崎会 検索



■外来診療科目

- 内科 ●呼吸器内科 ●循環器内科 ●消化器内科
- 外科 ●皮膚科 ●脳神経内科
- リハビリテーション科

診療時間のご案内	外来診療日	月曜日～土曜日
	診療時間	月～金曜日
		午前9:00～午後12:30 (受付は12:00まで)
	土曜日	午前9:00～午後12:30 (受付は12:00まで)

診療科目別の診療時間	診療科目	月	火	水	木	金	土
	内科	○	○	○	○	○	○
	外科						

下記の専門外来の診療曜日にについてはまずはお相談ください。

- 糖質制限外来 ■もの忘れ外来

MISAKI

Kokubu Chuo Hospital NEWS

vol.9

霧島市民に必要とされる施設
美崎会 活動 情報誌



医療法人邦和会 青葉クリニック濱田先生・
住宅型有料老人ホーム サービス付き高齢者向け
住宅「重陽の里」担当者 インタビュー

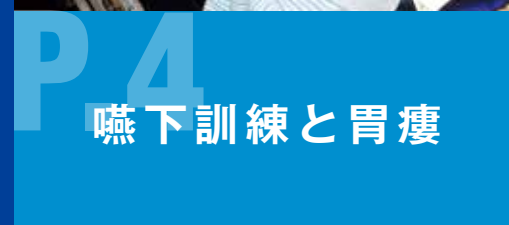
〔高齢者在宅救急について〕



当院の
糖質制限食について



特定看護師の
活動のご紹介



嚥下訓練と胃瘻



FREE
ご自由に
お取りください

医療法人邦和会 青葉クリニック

院長 濱田 慎二 先生

インタビュー

【木佐木】本日はお忙しい中、時間をお取り頂き有難うございます。高齢者在宅救急を運用して8月で1年を迎えました。1年目の出動は32件とまだまだ件数は少なく、改善点も多いかとは思いますが、2年目に向け、ご利用頂いた濱田先生からご指摘・ご助言をもらい、レベルアップした活動をできればと思っています。本日はよろしくお願いいたします。早速ですが、当院の高齢者在宅救急の印象はいかがでしょうか？

【濱田先生】当院も今まで5回救急車に来ていただきましたが、利用した印象は①要請が簡単で、②収容先が決まっており、③来てもらって直ぐに医療処置等が可能なところです。具体的には①は専用電話で直ぐに担当と話ができ、タイムラグがない。②は病院手配等なく国分中央病院に収容してもらえ。③は担当職員が救急救命士と特定看護師で直ぐに観察・処置が行える。要請する側からしたら大いに助かっております。

【木佐木】濱田先生、ありがとうございます。国分中央病院の高齢者在宅救急車は、要請を受け短時間に病院収容を目的として活動しています。活動内容は高齢者在宅救急の専用電話で直ぐに年齢・性別・主訴をお聞きし、医師の助言を受け、特定看護師同乗で要請場所に緊急出動、観察・処置を行い、患者様情報を医師に報告、医師の指示の下必要な救命処置を行いながら当院に収容致します。濱田先生、高齢者在宅救急は



青葉クリニック
院長 濱田 慎二先生



高齢者在宅救急担当
救急救命士 木佐木 勝

施設からの要請にも対応していますが、施設と青葉クリニックの連携、高齢者在宅救急がいかに間を繋ぐことが出来るかが重要な役割とっております。次に、高齢者在宅救急の施設と医療機関を繋ぐ役割についてご意見をお聞かせ下さい。

【濱田先生】施設から容態の変化ある患者さんをクリニックに連れてこられた場合、診察して病状によっては高齢者在宅救急車を要請しております。また、施設からの電話の際は容体を聞き、緊急を要する場合も高齢者在宅救急車の要請を行っています。日頃から施設と病院が連携をとり、タイムラグなく対処するのが重要だと思っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

【木佐木】濱田先生ありがとうございます。高齢者在宅救急は先生方のご協力を頂き、地域医療に貢献できればと思っています。今後とも高齢者在宅救急にご助言・ご協力を宜しくお願いいたします。本日は長い時間ありがとうございました。



■青葉クリニック

【診療科目】内科 外科 リハビリテーション科
霧島市国分郡田 721-4 電話／0995-64-0646



住宅型有料老人ホーム サービス付き高齢者向け住宅 重陽の里

担当者 インタビュー

【木佐木】本日はお忙しい中時間をお取り頂き有難うございます。住宅型有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅「重陽の里」さんには高齢者在宅救急をご理解、ご協力を頂いております。今後も青葉クリニックと重陽の里さんの間に入り、施設入居者様の病院受診等をスムーズに行えればと思います。施設として国分中央病院の高齢者在宅救急の取り組みをどう思われますか？

【担当者】国分中央病院さんの救急搬送の最初のきっかけは青葉クリニックの濱田先生のお勧めでした。それから、国分中央病院さんの対応の早さと受入れの準備の万端さに驚き・感心しました。

もう何回も利用させていただいております。そして、このような早急かつ行き届いた処置のおかげで重陽の里の入居者の方も何人もお命を救われました。ありがとうございました。今後とも是非ご利用させて頂きたいと思っています。よろしく願いいたします。

【木佐木】本日はお忙しい所、ご協力いただきありがとうございます。有難いお言葉、ご感想を頂きまして今後の高齢者在宅救急の活力となります。高齢者在宅救急はまだまだ始まったばかりで改善点等多々あるかとは思いますが、皆様方のご意見、ご指導、ご支援を頂きより良い取り組みにしていきたいと思っています。今後とも宜しくお願いいたします。本日はありがとうございました。



■重陽の里

霧島市隼人町松永 283-2 番地 電話／0995-73-8888

開放型登録医院の紹介

医療法人美崎会 国分中央病院では地域の医療機関との連携を生かし、患者さまへ、さらに快適な医療サービスの提供を目指しています。

【国分】

みみ・はな・のど としクリニック
梶原内科
原口耳鼻咽喉科
渡辺眼科クリニック
江口整形外科
うえぞの内科クリニック
帖佐クリニック
いぢち眼科
原口内科消化器科
青葉クリニック
三輪クリニック

とくしげ耳鼻咽喉科

プライマリ・ケアむろ内科
かのう医院
はやし内科クリニック
【隼人町】
島田泌尿器科医院
吉満内科クリニック
整形外科酒匂クリニック
はやと整形外科
隼人クリニック
山下内科クリニック
森クリニック呼吸器科・内科

永田医院

吉玉リウマチ・内科クリニック
八反田内科
【その他のエリア】
八木クリニック（福山町）
伊東内科クリニック（横川町）
佐藤医院（溝辺町）
壱岐医院（溝辺町）
竹田医院（霧島町）
春田医院（牧園町）
ひらしまクリニック（湧水町）



リハビリ
テーション室
室長
倉澤 寛明



診療技術部
部長代理
渡部 博一

えんげ 嚥下訓練

と

いろう 胃瘻造設

リハビリテーションを行う上で、咀嚼や嚥下という部分は、非常に重要な意味を持っています。口から食べられるようになれば患者さんは元気になり、元気になるれば更に食欲は増し、上手に食べられるようにもなってきます。栄養の補給は非常に大切なところで、良好な栄養を得ることなしには、食べられるだけの力も出てきません。

しかしながら、嚥下障害が重度で、食べるまでには至らない患者さんが多いのも事実です。誤嚥性の肺炎を繰り返す場合や、十分な栄養が摂れない状況が続く場合では、何らかの方法で、栄養をきちんと摂ってゆく必要があります。

胃瘻を使うようになれば、鼻から胃へのチューブの留置は不要となり、患者さんは不快感から解放され、患者さんの顔つきは一変し、いい表情になって生活全体が活性化していきます。また、食事の味も改善するので、食べようとする意欲も湧き、食欲が出てきます。当然、嚥下の訓練もしやすくなります。

このように、経鼻胃管の留置に比べて、胃瘻には実に大きなメリットがあります。

胃瘻を造設した患者さんは栄養状態が改善していきます。口腔ケアや嚥下訓練を根気よく継続していくことで、経口摂取が可能となる患者さんを見受けます。栄養をすべて経口で摂れるようになり、最終的に胃瘻が不要になり、抜去できるようになる患者さんもいますし、栄養の一部を胃瘻で補いながら、あるいは誤嚥しやすい水や内服薬を胃瘻で補い、無理せず食べたいものだけ食べる、という患者さんもいらっしゃいます。

経口摂取だけでは十分な栄養や水分が摂取できない場合には、一時的にでも胃瘻を取り入れて、まずは全身状態を整えながら、経口摂取の可能性を求めてゆく、といった取り組みの中から、経口摂取が可能となる患者さんが出てきます。

このような理由から、当院での経管栄養は経鼻胃管を使用せず、胃瘻で行っております。



栄 養 通 信

栄養管理室
管理栄養士
柏木 裕香



当院の糖質制限食について

日本人の糖尿病患者数は、生活習慣と社会環境の変化に伴い急速に増加してきています。当院では糖尿病の治療に力を入れており、糖質制限食を提供しています。

糖質制限食と常食（普通の食事）との比較（1400kcalあたり）

	糖 質 (g/ 日)	たんぱく質 (g/ 日)	脂 質 (g/ 日)
糖 質 制 限 食	45-50	112	84
常食（普通の食事）	174	70	45

糖質制限食は普通の食事と比較して糖質を抑えているため、たんぱく質と脂質で調整しています。また、肉魚を増量したりなど、糖質を制限していても満足していただけるよう、献立作成に力を入れています。

常食（普通の食事）



糖質制限食



糖質制限食の利点

- 食後の急激な血糖上昇を抑えることができる。
- 血糖の変動が極めて少なくなり、血糖コントロールが改善される。

特定看護師の活動のご紹介

看護介護部
部長
河本 智美

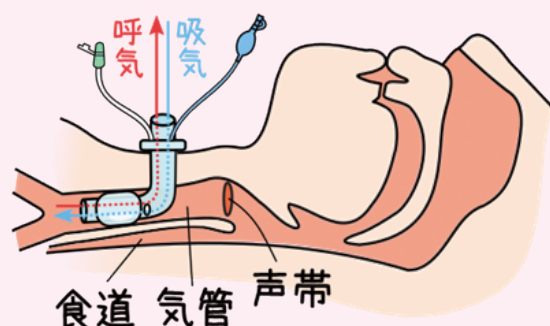


今回は、当院の特定看護師が行っている特定行為として、**気管カニューレの交換**についてご紹介したいと思います。

まずは、気管カニューレが挿入されている患者さんはどのような方かという、

- ①脳卒中などの中枢神経障害や難病の神経変性障害、または抜管出来ないくらい呼吸状態が悪く、長期にわたる人工呼吸器管理が必要な方、
- ②分泌物が多い基礎疾患、自力で痰を出すことが出来ない方、
- ③口から声帯までの間に何らかの異物や腫瘍、構造的な異常があって空気の通過障害がある方など気管切開の適応になった方です。

気管切開チューブ



気管カニューレは定期的な交換が必要となっています。当院には、気管切開をされた方が20名ほどおり、2週間に1度気管カニューレの交換を行っています。

これまで、医師の業務の合間と、患者さんの状態に合わせ実施されていましたが、特定看護師がこの手技を実施できるようになったことで、病棟看護師とケアの合間をみながら特定行為を実施できるようになりました。また、なんらかの理由でカニューレが抜去してしまった際も、病棟に在籍している特定看護師で、すぐに対応できるようになったことも利点となっています。



いろんな場所で難病患者や家族から相談を受けることが多いのですが、その内容は診断や治療法、長期療養に伴うさまざまな問題、そして不安や病院に対する不満などです。

相談の中でもとりわけ多いのが、病院や担当医師への不満です。多くは誤解や言葉足らずに起因することが多いように思われます。また最近では多くの病院で予約制になっていますので待ち時間は短くなってきましたが、それでも2時間待って診察は5分、そして医師はパソコンにらめっこで、まともに顔も見えてくれなかったというような不満もよく聞かれます。本当はいろいろな心配事をいっぱい聞いてほしかったのに、何も聞けないまま診察室を後にするわけで、不平や不満が残るのは当然ともいえます。

難病相談・支援センターで相談を受けるときには十分に時間を取ることができますので、患者さんの不安にすべて答えることができます。神経難病などのように奏効する治療薬の少ない病気では、頷きながら患者さんの言われることを静かに聞いてあげるだけでも、「治ったような気分です」と言いながら帰ってくださることも多いようです。

それでは患者・担当医関係について考えてみたいと思います。病気になったときに気軽に相談できる「かかりつけ医」を持つことが大切です。かかりつけ医はあらゆる病気の専門家である必要はありません。相性が合い家族の状況も含めて自分のことをよく知ってくれて、専門外や手に負えないと

思ったときには別の医師や病院を紹介してくれる医師だったら理想的です。

一昔前までは特に田舎では多くの家庭が自然な形で「かかりつけ医」を持っていたように思います。ところが最近では病院の数は増えたのですが、いわゆる専門性が強くなったこともあって、かかりつけ医というような家庭医を探すことが難しくなっているようです。病気や病状が変化したときにはいつでも相談できて、電話を受けた医師も患者の顔がすぐに思い浮かぶといったような関係になればいいのですが。

病院で診察を受けるときの「受診術」も大切です。

受診した目的（医療用語では主訴）を要領よく話すことが大切です。高齢になると「頭も痛い、おなかも痛い、手もしびれる」などたくさんの症状を持つ人も多いので、取りあえずは病状を絞って要領よく伝え、その後は医師の話に集中して耳を傾けて欲しいと思います。そのためには病状を箇条書きに書いて、医師に渡すのも一つの方法です。

また病状が好転せず疑問に感じたら、遠慮せずにセカンドオピニオン（別の医師の意見を求める）の希望を告げることもできます。ただ医療に対する過大な期待と懐疑すぎるあまり、病院ショッピング（次々と病院を受診すること）だけは避けて欲しいと思います。

医療の「安心と信頼」の構築には、患者と医療者の共同作業と良好なコミュニケーションが必須です。